

1976年2月25日第三種郵便物認可（毎週4回月曜・火曜・木曜・金曜発行）

2006年6月10日発行 SSKO 増刊通巻第6099号

SSKO

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

Grow up!!

栃木ダルク

ニュースレター 第39号(2006, 6, 10)

回復と成長と役割

栃木ダルク

代表 栗坪千明

(第二回)

2ヶ月たったころ仙台の施設に移動になった。仙台では割と自由に過ごすことができた。施設の車を貸してもらい、仲間と一緒に青葉城址に行き、展望台から仙台の町を眺めた。クスリが抜けてきたのか、景色がとても鮮やかに見えて感動した。

落ち着いて景色を眺めるなんていうことは、今までしたことのないことだった。こうして少しずつクスリを使わないことの楽しさを味わっていった。そのこととは裏腹にあせりがいつもあった。「こんなところでグズグズしていたら社会に出られなくなる。」といつも思っていた。しかしどういう風にも社会に出て働いたらよいのという具体的な考えはまるで無かった。

クスリを使っていない期間が7ヶ月を過ぎたころ、施設の中でさまざまな問題が起り、自分自身も施設のスタッフが信じられなくなり、「もう施設を出よう。」と思いはじめたころ。茨城ダルクから施設長の岩井さんがやって来た。ちょうど良いと思い、岩井さんに言った「もう社会に出ようと思います。」しかし帰ってきた言葉は予想と違っていた。

「茨城で法人化を進めている。その仕事を手伝って見ないか。」だった。なんだか良くは解らなかったが、意地で施設を出たいと言いながらも社会復帰をどのようにしたら良いのか不安で仕方の無かった私にとって、それは渡りに船だった。早速茨城に移り、研修スタッフとなり、法人化の手伝いを始めた。

この仕事は、精神年齢の低い私にとって大人になるチャンスを与えてくれた。なぜその仕事を私に手伝わせようと岩井さんが思ったのかは今だに良くわからないが、私にとってはとてもありがたいことだった。その仕事に私はのめりこんでいった。しかし、一度目は努力したにも関わらず法人の認可は下りなかった。このときが私にとってクスリの再使用の最大の危機だった。世間一般の考え方では“大したこと”ではないのかも知れないが、私としては「クスリをやめて一生懸命やったのに、やっぱりやめても俺は駄目なのか。」と自己否定感でいっぱいになった。何かもうこの施設にいる理由がなくなってしまったように思えた。それを救ってくれたのは、いつもNAミーティングで会場を使わせていただいているカトリック教会の神父様だった。神父様は「神様は超えられない試練はおあたえられない、今回できなかったのは、あなたの努力が足りなかったのではなく、まだ必要な時期ではなかったのだ。」と、そのことを聞いて、自分は法人化と言う仕事にクスリから依存の対象を変えただけなのだと気づき、とても楽になった。そしてNAミーティングにでも、依存症にまつわる今まで話せなかった自分の問題を話せるようになった。

それからは、原点である入寮者の回復の手助けをするという施設の通常の業務を手伝うようになった。2002年、私にとっての2度目の法人化はプログラムをしていたせいかととても楽にこなすことができた。しかし法人認可は通ったものの建物が建てられないという苦い結果に終わった。皮肉なものだが、そのおかげで那須という回復の場所を与えられた。

2003年2月に仮の場所として黒磯に、同年11月からは現在の施設で活動を始めた。なかなか思うようにいかなくて、もう辞めようと何度も思った。その都度プログラムと仲間にも救われてきた。

変わらんね～

栃木ダルク

トッチー

ダルクに入寮して2年半、クリーンが始まってから2年3ヶ月が経ちました。自分の中では「楽に生きよう」とか「楽しもう」とか変えなくちゃいけないものは変えていこうと思いつつながら生活してきたつもりなんですけどね～生き方なんて変わりませんよ。

ダルクに来る前に8年も覚醒剤を使っていたので、嫁や娘と生活出来ない状態になって離婚も経験しましたし、住む場所も無くしました。自分を正当化するために薬を使いながらも唯一頑張っていた仕事も続けられなくなりました。

金は無い、仕事は無い、住む場所も受け入れてくれる人も……。悲しいことにその時の僕には何も残ってなくて、悲しくて寂しくて。別れた嫁に「ダルクに行つて回復してください」って言われたのを無理やり「ダルクに行つて回復さえてくれたら、また私と娘と一緒に生活出来るんだから頑張つて！！」って言われたんだと思いついで「幸せになろうね」まで付いてたかな～？とにかく「栃木ダルクのプログラムは最低9ヶ月らしいから、俺は死ぬ気で頑張つて間違いなく9ヶ月で出てくるから待つてくれ」って捨て台詞を吐いて、勝手に約束したつもりになって施設にやってきました。

嫁に信用して欲しいし再婚したいから、娘のかわいい顔をいつも傍で見たいから、両親や兄弟に回復した姿を見せたいから・・最初の頃の自分には自分の為の回復なんて考え方は全くなくて、むしろ「俺の為だったら回復なんて必要ないし薬を使い続けて死ぬんだったらそれはそれで幸せじゃん」ってずっと思っていました。だから施設生活を始めても最初のうちは先行く仲間にどう見られるかが一番の問題でした。早く「回復したね」って言われたくて、しなくてもいいことを勝手にして仲間に対しては支配的になって。自己中心的なんでしょうね～基本的に。毎週嫁に電話して注意されれば逆切れして、施設で覚えたブロンを仲間と一緒に使つてみたり、仲間の処方薬を飲んでみたり、言うことかかない仲間は暴力で押さえつけたし、俺ルールみたいなもんですよ、使つてた時と何にも変わる訳ない生活を続けてました。最後には「こんなところに居ても回復なんて出来ないから出る」って言って、たった3ヶ月で施設を出ました。今だったら「当たり前だろバカ！！」って言ってあげちゃいますよ、本当。

施設さえ出れば嫁は受け入れてくれるはず（つもり）だったし、最悪でも両親は一緒に住ませてくれるって思っていましたよ。ただ恐るべしは家族会とハイヤーパワーですわ。電話は繋がらないし家まで行つても逃げちゃつて誰にも会えない。父親の携帯だけ何とか繋がつて「助けてくれないと死んじゃうかもよ」って言つてるのに「それはお前が選んだ事の結果だから知らん」って。意味分からんし、今まで

の両親との関係を考えてた有り得ない台詞だし「マジかよ〜」ってね。計画性無く飛び出して来たからお金は無いし、一週間が限界でしたね、最初から仕事しようなんて思ってなかったから。格好を気にする僕にとっては格好悪くて嫌だったんですけど、そんな事言ってもらえない位追い詰められてたから、半泣き状態で施設に電話して「もう一回やらせて下さい」って。

それから楽しくはなっかたですよ、本当。僕の思い通りにはならない事ばかりだったから。先行く仲間に提案された「棚上げ」っていうのも出来なくて、嫁や娘に捕われ続けたし、親が負担してくれている入寮費の事も悩み続けたし、薬を止めてるのに欲求は無くならないし、回復の実感なんて時間が経つほど感じられなくなるし・・・。

僕は基本的には前向きな性格してると思うんですけどね〜「もういいよ」とか「俺は回復しないわ」って何度も思ったし、諦めて全部ぶん投げて逃げちゃおうって何度も考えたし・・・いつからかな〜そういう気持ちが無くなったっていうか薄らいできたの？なんかよく分からないんですけど・・・ミーティングに出続けて、自分が悩んでる事や自分の問題みたいな事を正直に吐き続けるって事だけ続けてたら不思議と捕われも薄くなってきたし、見栄も張らなくなってきて少しずつは楽になってきましたね。少しですよ、ほんの少し。

最近思うんですけど、なんか時間かかるみたいですよ。ん〜仕方ないんでしょうけどね、周りの人にも自分に対してもそれだけの事はしてきちゃいましたから。今の自分を受け入れるって作業だけでもこんなに時間かかってる訳だし。何か本当に嫌なんですけどね、「薬物依存症は一生治らない病気です」とか「死ぬまで回復を続けるしかない」みたいな。まあね、まあまあって感じかな〜、これも仕方ないかってね。

まあ今のところはこのままいきますよ。別にやりたい仕事がある訳でもないし、今の役割にも楽しさっていうか遣り甲斐みたいな物を少しは感じてるし。それに今は何だか守られてるって気はしてるんで、仲間とかハイヤーパワーとか何かいっぱい。ちょっとは幸せって言うのかな〜？使ってた頃と比べたら・・・ね〜。

必要な事はまだまだありますよ、変えなくちゃいけない事も。でも、少しだけ自分の中で変わってきた事も認めてあげようと思ってます。褒めてあげるっていうのかな〜。僕は褒められて伸びるタイプなんで。少しは急ぐことが減ってきたとか、落ち着きが少し持てるようになってきたとか。それに今は続けてればなんだって与えられるって思えるしね！ただ僕は幼いから、責任感なんてないし基本的に生き方なんて変わってないし、気を抜いたらすぐ元に戻るって事だけは忘れずにいようと思ってます。

言っぱなし、やりっぱなし？大得意ですからね。変えられるものは変えていく・・・のかな〜？まあボチボチいきますよ。

2006年1月、宇都宮に社会復帰用の施設を開設した。那須TC、宇都宮OP、RHの3施設で栃木ダルクと改名した。金銭面では自転車操業で大変だけど、相談件数も増えて必要とされていると思えるときも増えた。役割上の仕事はとても充実している。

私が施設に入寮してから今まで、仲間以外にも本当にたくさんの人たちに救われてきた。その人たちに深く感謝している。

献金のお願い

6.7.8月と車検と私道の整備をしたいのですが、お金が有りません。いつもお願いばかりで心苦しいのですが献金をお願いいたします。

6月予定表

- 7日 合同山登り
- 13日 裁判
- 23日 足利市少年補導委員会講演
- 25日 家族会
- 27日 佐野市北中学校講演

編集

栃木DARC

宇都宮OP

那須TC

〒320-0014

〒329-3225

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14

栃木県那須郡那須町豊原丙 3227-2

形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

ホームページアドレス <http://www.t-darc.com>



梅雨空の下で全員集合

発行所

郵便番号一五七—〇〇七三
東京都世田谷区砧六—二六—二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円

5月献金を下さった方々

船山美知子様、森千鶴様、大和田訓次郎様、向井勝寛様、山口武様
青木けい子様、五味渕玲子様、山本はるひ様、高橋美紀様
那須ハモニシアライオンズクラブ様、NPO法人ASC那須様
水井清次様、アルコール研究会様

匿名3名様

5月献品を下された方々

山口武様、水井清次様、バルロ材・マクホン様、大田芳一様

匿名1名様

発送作業簡略化の為、振込み用紙は全員に同封させていただいております。
ご理解の程よろしく願いいたします